5つ星の評価を受けているキャセイパシフィック航空のサービスは、上質のクオリティを誇ります※。
日本－香港間の圧倒的な便数と価格以上の充実のサービス。

香港に行くならキャセイを選ばなきゃ、もったいない。

ダブル アジア・マイルキャンペーン※ 4/1よりスタート。

cathaypacific.co.jp

お問い合わせ 予約発券センター 0120-46-3838（日本国内）
営業時間：月～土 9:00－17:30／日・祝 休み

CATHAY PACIFIC

表示運賃は、2015年3月までの間の東京（成田）発香港行き「エコ得3」の最安値です。燃油サーチャージ、その他各種税金など、諸経費が別途必要となります。
画像は、長距離路線のプレミアム・エコノミークラスのイメージです。 ※英国スカイトラックス社より、5つ星エアライン認定 ※アジア・マイルの規約が適用されます。

JAPAN HONG KONG

飛龍 FLYING DRAGON

日本香港協会ニュース ……No.76

開通110周年　香港路面電車に変化現れる

A 新しい電車の２階席。アルミの把手がウサギの耳風　B 新型の外観デザイン
C 更新された駅名板　D 左が新型、右は従来型

近年、この路面電車に変化がはじまっています。まず、すべての電車のりばに駅名と番号が付きました。たとえば、中環にあるHSBC前の西行きトラムストップは、記号が「68W」、駅名は「銀行街（Bank Street）」です。ちゃんと各ストップに掲示板も出ています。そして再び新しい電車が登場しました。従来の電車は鉄の外板と木の内装だったものが、アルミニウムの車体構造となっています。外見デザインは従来の車体とあまり変わらないのですが、車内はさっぱりとしてきれいです。シートはプラスチックから木とアルミになるなど、居住性が向上しています。特筆すべきは乗降ドア。これまでは上半分が吹き曝しでしたが、新車にはちゃんとガラスがつきました。これで運転手さんは荒天時にも横からの雨風に濡れず、仕事ができるようになったのです。

香港路面電車は今年で110周年を迎えます。堅尼地城（ケネディタウン）から筲箕湾まで、香港島北岸をカラカラゴトゴトと走り、現在でも公共交通機関の役割を立派に果たしています。道路から直接乗り降りできるため、近距離の移動だと地下鉄よりも早く着いてしまいます。

香港の乗り物には珍しく冷房がなく、手作業で作ったかのようなレトロ感あふれる電車が、香港旅行や駐在時の記憶にある方も多いのではないでしょうか。

従来車は次々この新しい車体に更新されていますので、近いうちに全部がきれいな新車になることでしょう。でも、1台だけ昔の1950年代デザインのまま今も走る120号車は、これからも大切にメンテナンスされて残ってゆくことと思います。

（広報委員会副委員長　小柳淳）

目　次

2014年4月 発行

開通110周年　香港路面電車に変化現れる …… 1
新駅開業と日常の味　西營盤 …… 2
香港財界人との交流 (5) …… 3
香港は女性力をどう活用しているか―サリー・ウォン首席代表、バウヒニア会で率直に語る。 …… 4
連合会・各協会便り
　連合会：2014春節レセプション開催 …… 6
　　アジア金融フォーラム …… 8
　東　京：第13回NPO法人日本香港協会年次総会、第35回　香港ビジネス懇話会開催 …… 9
　関　西：チャイニーズ・ニュー・イヤー・パーティー2014、春節セミナー開催 …… 10
　中　京：2014年　新年総会及び新春パーテイ報告 …… 11
　九　州：2014年春節セミナー＆パーティー開催 …… 12
　北海道：「香港ビジネスセミナー」、「香港のつどい2014」を開催 …… 13
　宮　城：「2014春節セミナー＆パーティー」、芋煮会（女子部会主催）第2回香港文化教室（女性部会主催） …… 14
　沖　縄：春節ランチョン　開催 …… 15
　広　島：春節・意見交換会の開催について …… 16
　新　潟：2014年　春節セミナー＆パーティー …… 17
キャセイ航空からのご案内 …… 18

新駅開業と日常の味　西營盤

池上 千恵

港島線の上環(ションワン)駅以西は、これまで大量輸送機関を持たず、トラム、バスなどの交通機関に頼ってきました。そのためか、どこかゆるりとした空気の流れる下町として長らくの時を刻んできましたが、その地域で現在、2014年中の開業を目指してMTR西港島線(港島線の延伸線)の新設工事が進行しています。

香港の一般道で最急勾配といわれる正街(Centre Street)の坂上から望むヴィクトリア港、多くの地域住民の胃袋を支える街市、ブォーンというミニバスのエンジン音に負けないくらいの音量で四方八方から響いてくる力強い広東語。上環駅前からトラムで10分程度、徒歩でも行けるこの西營盤(サイインプン)は、わかりやすく「香港の日常」が感じ取れる地域です。ここにも駅が新設されることとなり、その利便性を見越して大型マンションやホテルが次々と建築されています。当然地価も高騰し、家賃の大幅引き上げにより引っ越しを余儀なくされ、また個人商店も移転・閉店せざるを得ない状況も続いていますが、それでも住民が見せる「仕方ないよね」といった淡々とした物腰は、大きな歴史的変化の多い香港で清濁併せ呑んできた者が持ち合わせる心の自衛手段なのかもしれません。

少なからずの影響をもたらすであろう新駅の開業まで残りわずかな時間となりましたが、今はまだ古き良き面影を残す飲食店も点在し、人々は生活の一部として利用しています。創業30年の茶餐廳、聯華茶餐廳(西營盤正街 28 號)は、二階席から一階を見下ろせる昔ながらの飲食店の造りを残し、象徴的な天井扇がゆるゆると空気をかき混ぜています。使い込まれて角の取れたテーブルといすが並ぶ店内にふらりと入店し、知り合いの顔を見つけては自家製パンと奶茶(香港式ミルクティー)をお供に談笑したり、新聞を読みながらひとりの時を楽しんだり。

香港全体を見渡しても減り続けている光景が毎日繰り広げられています。隣接する1855年創業の老舗、源記甜品専家(西營盤正街32號)は、正統派の糖水(香港伝統のおしるこ類)の数々が大人気で、香港通の日本人にもその名が知れ渡っています。ごま、くるみ、蓮の実、アーモンドなどを使い、しみじみと体に染みる甘味を作り出しているのは寡黙な男性職人たち。「体に良い」「頭に良い」をモットーに自然食材から作り出した甘味で、地域の人はもちろん、近所にある香港大學の学生たちの気持ちと顔をほ

參去壹點心粉麺飯の店頭は臨時のダイニング

ころばせています。二筋ほど離れた参去壹點心粉麺飯(西營盤薄扶林道11號)は、點心の人気店で、店頭に積み上げられた蒸籠の中では、様々な広東點心が湯気を上げて出番待ちをしています。店前の歩道に並べられたテーブルでは、相席になった人同士が「それはなに？」「鶏包仔だよ」と投げ合った言葉が広がり、家族の話、時事の話などへと会話が発展。その話に割って入ることはできなくても、卓を挟んでの気取らないやりとりに触れることで、點心の味がぐんと増していくこともしばしばです。また、焼き菓子を扱う歯來香(西營盤第三街66號福滿大廈)では、家でのお茶請けを選ぶ人々が。ここは店の奥に厨房があり、商品は全てそこでの手作り。ココナッツの香りを含んだ甘い香りがほんのりと漂う中、常連さんの迷いない選択を参考に、私も日本へ戻ってから味わうための菓子をいくつかと名物の蛋卷(エッグロール)を仕入れます。

名前を挙げればきりがありませんが、西營盤では一筋二筋歩くだけで幾多の日常の味に出会えます。それら店では旅行客だからといって特別な扱いを受けることはないものの、つかず離れずの距離を保ちつつ、歩み寄る者はおおらかに受け入れてくれる、そんな気質を持つ人々としばしのふれあいが体験できるでしょう。

駅の新設により、町から街へと西營盤も変化を遂げざるを得ない渦中にありますが、環境的にも心情的にも、地元の人々にとっての「日常」ができる限り守られて欲しいと願ってやみません。その「日常」のおすそわけが、旅行者にとっても大切な香港の思い出にもなるのですから。

池上千恵／フリーライター『香港　無問題』(JTBパブリッシング刊)、『香港路地的裏グルメ』(世界文化社刊)などの書籍を通じて、ローカル寄りの香港をナビゲートしている。最新刊は共著の『香港トラムでぶらり女子旅』(ダイヤモンド・ビッグ社刊)

香港財界人との交流(5)　Martin Barrow氏のこと

日本香港協会会長 戝前　宏

本稿でスワイアーのペーター・サッチ氏について書いたがスワイアーに触れてジャーディンを記さないのは不公平なので今回はマーティン・バロー氏(以下M.B.)を取り上げたい。1980年代後半、ジャーディンはM.B.、スワイアーはGledhill氏が両社を代表していた。既に英国の撤退は決まっており両氏とも財界では香港人の財界人を陰で支え、表立った動きはしないように注意深く香港の行く末を見ていたような印象がある(勿論複雑な心境にあったと思うが)。

ジャーディンは説明するまでもなく英国に本社を置き、アジアのみならず世界中に拠点を張り巡らせたコングロマリットだ。1997年前にバミューダに本社を移したとメディアに叩かれたこともあったが、実際は登記上の本社で返還後も更に業務を拡大している。M.B.と最初に合ったのはジャーディンハウスに赴任の挨拶に行った時だ。開口一番、ジャーディンハウスの丸い窓を指して三菱から窓ガラスを買ったが旨くゆかなかったと言われた。恐らく旭ガラス製品が規格に会わなかったものだろうが、彼は盛んに香港で建設事業を一緒にやろうと誘いかけていたので、地下鉄とか大潭のマンション群とか建設部門は何しろ失敗の歴史なのでと話したら大笑いとなった。香港中にジャーディンの名前の地名、道路名が至る所にある。ジャーディンの業容で感心するのは金融、不動産、建設、貿易、物流などは分かるが小売りとかホテル業、飲食まで手を伸ばしていることだ。実際に現在の香港の小売業を見てもジャーディンはWellcome、Mannings、Daily Farm　を運営し更に外人向け高級スーパーなども経営している。(李嘉誠傘下のHutchisonがPARKnShop、Watsonsなどを経営しこの業界を二分している)これらをベースに中国本土でも不動産、建設等の他、小売りでも着々と地歩を築いているのは驚くべきことだ。日本企業が本土で苦戦しているのに比べ、流石に1800年代初めから香港に根を下ろし中国本土にスマートに進出して行くのは見事だと思った。ところが彼も中国ビジネスが全く利益が出ないので悶々としていた時もあった。私が日本に帰ってから日香経済委員会等の会合で彼と何度も会い、私も北京で中国流の不可思議なやり方に散々苦労したので中国ビジネスの難しさでは彼と意気投合していた。温厚な人柄で外に怒りを現わすことは絶対にない彼が怒っていたことがあった。中国ビジネスに力を入れている某社の中国責任者が中国についてバラ色の未来を語ったところ、M.B.がそれなら相応の利益がでているのかと質問した。誰も利益が出ないことを嘆いているところなのに、彼は十分利益が出ていると答えた。M.B.は彼とは会話を止めて、私に何故彼は嘘をつかなければならないのだろうと憤懣やるかたなき表情で私にささやいた。私も同感なのでその場は慰留に努めた。それにしてもその後の中国への進出は見事なものであった。恐らく利益は彼の期待ほど取れなかったであろうが。

彼の奥さんはのり子さんという日本人で、80年代のスワイアーの代表Gledhill氏の奥さんも日本人であった。日本人社会でも色々二人のご婦人にお世話になったが、香港の外人社会での奉仕活動等お二人の活躍は見事なものであった。M.B.もGledhill氏も会社での活動を主として、財界(香港の場合は財界が政界の如きものだが)では側面から支援するという態度をとっていた。主役として活動できない悩みが多々あったであろうと思うが、ある意味では植民地返還の大功労者とも言えよう。M.B.は立法評議会とか香港政府観光局(当時は民間団体)の会長を務めていたがその後ロンドンに戻ったようだ。英国女王よりCBE、GBSなどを受けた。英国のJapan Societyの副会長などを引き受け引退後も大活躍している(日本通でご子息は永平寺で修業したとも聞いている)。

一昨年の夏、香港貿易発展局の人たちと会食の際、突然、今東京にいるとの電話があった。訪日旅行者を増加活動のお手本であるYokoso Japan大使(現Visit Japan大使)を引き受けたようで相変わらず精力的に活動しているようだ。私が香港にいたころ石澳の広大なお宅に夫婦で度々招かれた。香港島の裏側で私の居た深水湾から山側に入ると短時間だが荒涼たるウェールズからスコットランド海岸を走っているような気分となる。英国人は人里離れたところに住みたがるがまるで香港の喧騒とは無関係の別天地だ。1997年前のことだが私も日本に戻り、出張で香港空港に立ち寄った際、何気なく英字紙を見ていた。97年以降香港の将来について皆が悲観的な空気に包まれていた時代だ。英国人にしてみれば植民地時代は終わり、将来は真っ暗と思っていたであろう。かなり前のことなので記事の詳細は覚えていないが、昼食に彼の仲間が集まった際に、(私は夜しか訪問したことがないので知らなかったが)広い庭の真ん中に国旗掲揚台があり日曜は大英帝国のユニオンジャックを、その他の日はスコットランドのセントアンドリュースの旗を掲げていたと書いてあった。M.B.は香港の立法評議会議員なのでユニオンジャックは当然だが、一方でジャーディンの役員でもあるのでジャーディン創業者たるケズウィック家は(三井家、住友家の如きもの)スコットランド出身なのでスコットランド国旗も掲げていたのであろう。確か記事では植民地時代も終わるので国旗掲揚も終わるであろうと揶揄したような文面であったかと思う(そのスコットランドも今秋独立可否の選挙がある)。何れにせよM.B.もこの時代は大変なプレッシャーを受けていたと思う。

香港は女性力をどう活用しているか

―サリー・ウォン首席代表、バウヒニア会で率直に語る。

日本香港協会は3月4日(火)、東京・青山のアイビーホールで女性会員を中心にした初のビジネスセミナー 「香港に学ぶ 女性が活躍できる社会」を開催した。講師は香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部のサリー・ウォン首席代表。日本香港協会の女性部会として2011年に発足したバウヒニア会は、これまで広東料理教室などを開いてきたが、同年誕生した安倍晋三政権が「日本経済の発展には女性パワーの積極的な活用を」と呼びかけているのに呼応し、日本の女性力を高める一助として、女性の活躍が著しい香港の現状を香港政府の駐日トップから直接語ってもらえないか、と駐東京経済貿易代表部と交渉してきたもの。ウォン首席代表が快諾したのを受けて、バウヒニア会では女性会員たちに呼びかけて準備してきたが、60人の定員がほぼ満席の盛会となった。 (取材・文責 麻生雍一郎)

セミナーは日本香港協会の原田光夫理事長のあいさつ、太田良子バウヒニア会担当理事のあいさつの後、ウォン首席代表が演壇に立ち、自ら所管する香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部の構成からスピーチを切り出した。それによると、同代表部のメンバー16人のうち、ウォン首席代表を含め12人が女性、男性スタッフは4人に過ぎないという。続いて首席代表は話題を香港に移し、16万人強の公務員のうち、63.7％が男性、36.3％が女性という割合を紹介した。ディレクターと呼ばれる香港政府の上級管理職レベルでもその割合は余り変わらず、66.5％が男性、33.5％が女性だという。

公務員のトップである常任秘書長は18人だが、半数が女性。また、世界各国にある香港経済貿易代表部でも女性はほぼ半分を占めている。職場での指導的役割や専門職業で女性は年々、着実に増え、管理職に就いている女性の割合は2013年に32％、専門職では37％に上がっている。2011年のデータでは、公認会計士の48％、弁護士の46％、医者の30％が女性だった。しかし、香港でも女性が一気にこの水準に達した訳ではなく「政府や様々な部門が法整備を行い、組織を設立し、文化や価値を根付かせるなど大変な取り組みを行った」という。

女性の権利を支える法的枠組みとして香港には香港基本法と香港人権法案条例があり、これに沿った性差別禁止条例と家族差別禁止条例が雇用、サービス、契約、妊娠などを理由にした差別と、家族の状態や家族の介護責任を理由とした差別を禁じている。機会均等委員会という公的機関も設立され、二つの差別禁止法の実行推進を担っている。

ウォン首席代表が強調したのが2001年に設立された政府の諮問機関「女性委員会」。女性が受けるべき地位、権利、機会を実現することを使命に様々な提言をしているが、柱の一つ「ジェンダーの主流化」では禁煙、母乳による育児、乳幼児保育施設の提供など具体的なチェックリストを作り、男性と違う女性のニーズを政策に生かし、男女が社会の資源や機会に平等にアクセスする道を開いてきたという。民間部門でも2013年、香港証券取引所が上場基準を改正し、企業が”ガラスの天井”を撤廃し、女性が取締役など経営レベルに一段と進出しやすくなる環境を整えた。

女性委員会はこのほかあらゆる階層の女性の生涯学習を進めるため「能力開発マイレージ・プログラム」を実施しているが、「ラジオ番組や対面講座、またインターネット講座などを通して、主婦を含む女性がお金の管理、コミュニケーション・スキル、健康などについて学べる、とても柔軟な学習プログラムで、140万もの人たちがラジオ講座を聴いたことがあると答えました。現在は広東語での講座だが、少数民族や中国本土から香港に移住した女性のために近く英語や普通話の講座も開設の予定」という。

「女性委員会では女性と男性が家庭内の責任を共有しているという、家族にやさしい職場環境が仕事・家庭・人生のより良いバランスを生み出すだけでなく、生活のあらゆる側面での女性の参加を可能にすると信じています。そこで委員会では家庭にやさしい雇用慣行を推進しています」とも語った。

ウォン首席代表は香港が日本と共通の二つの問題を抱えている、と指摘した。高齢化と労働人口の減少だ。「政府はどのように女性の潜在力を解き放ち、労働市場に引き付けるかを真剣に検討しています。より手頃で利用しやすい育児サービス、大きい子供を持つ女性への機会の確保、ジョブ・マッチングサービス等々。企業に対してもパートタイムやジョブ・シェアリングといった家庭にやさしい職場慣行を採用するよう働きかけています」。 ウォン首席代表は「香港と日本はお互いから多くのことを学べるでしょう。今日は香港の経験を皆さまと共有する機会をいただき、とても嬉しく思っています」と笑顔で講演を締めくくった。

サリー・ウォン首席代表は講演に続いて、バウヒニア会の藤本佐和さんを質問者とする対談形式のトークを行った。対談形式のトークでは自らの子育ての苦労など家庭内の話題も含めた率直な意見や感想を披露し、出席者たちの共感を誘った。主なやりとりは次の通り。

自らの子育てなどについても率直に語るウォン首席代表（中央）

質問 ウォン首席代表は単にキャリア・ウーマンというにとどまらず、香港政府の高官、またワーキング・マザーとしての経験も積んでこられました。どうバランスを取りながらこれらのお仕事を遂行したのですか？

ウォン 「政府内では様々な役職・部門を経験してきましたが、中でも難民調整官（Refugee Coordinator）は、女性として就任したのは私が最初で最後でした。というのも、この役職は私の任期後、別のポストに統合されたからです。仕事・家庭・生活の良いバランスを取れたのは家族、とくに夫のサポートがあったからです。それと、日本に比べ香港の女性には有利な点があります。香港政府は外国人家政婦の雇用を認めていますので、多くの一般家庭が家政婦を雇っています。彼女たちが子供の面倒を見てくれるため、女性が仕事に集中できるのです」

「残業や海外出張など重い責任を伴う役職も多く、仕事と家庭の両立が難しく感じられた時もありました。今は息子も成長し、両立が最も困難な時期は脱しましたが、成人になった息子と向き合うのはそれなりに大変な仕事。自我・自分の意見を持つ息子とどのように接するか―こちらの意見を押し付けるのではなく、友としてのアドバイスを心がけています」

質問 香港の職場環境、女性登用の現状を教えて下さい。

ウォン 「現在、香港の公務員は採用、昇進、給与、福利厚生で男女が平等に扱われています。しかし、ここに来るまでに数十年かかり、先輩たちが男女の平等を求めて闘ってきたのです。私の姉が政府に入った当時は女性公務員の給与は男性の７５％でした。給与の平等を求めて女性公務員の闘いが始まり、給与の平等が確立された後、さらに数年かけて福利厚生の平等を求めました。中でも住宅手当は日本同様、香港の土地不足という事情を考えると重要でした。現在は女性にも公務員住宅などが提供されています」

「女性が活躍できる環境作りには、講演でも述べた女性委員会が大きく貢献しました。３つの柱―環境作り、女性のエンパワーメント、一般市民への教育―には私自身、直接関わりました。とくに航空会社のマイレージ・プログラムなどを参考にした”能力開発マイレージ・プログラム”には特別な思い入れがあります」

質問 香港の女性の地位向上の歴史はウォン首席代表のキャリアと重なっていますね。民間部門の動きはどうですか？

ウォン 「民間でも最近、女性の活躍を支える動きが目立ち、企業の取締役会のジェンダーを含む多様性を促す香港証券取引所の上場基準の改正はその一例です。調査で４割の上場企業で女性取締役が１人もいないことが分かったことが背景にあります。政府高官レベルで女性の登用が進んでいるのに、民間企業ではまだまだという結果に香港人はショックを受けたのです」

質問 女性登用の数値目標を掲げることは？

ウォン 「政府が企業に対し数値目標の設定を行ったりするのは、市場への介入ということで避けています。その代わりに一般市民への教育・啓蒙活動に注力しています。政府が良いお手本を示すことが大事。だから常任秘書長（permanent secretary）の半分は女性が占め、世界の香港経済貿易代表部（ＥＴＯ）の半数は女性がトップを占めているのです」

質問 日本の女性登用について、また、今日のセミナー参加者へのメッセージをお願いします。

ウォン 「日本の女性は他国に比べすでに３つの点で良いスタート地点にいます。一つは高い教育水準です。教育がままならない国も多いのに、日本は大学進学率も高く、学位や資格を持った女性が多い。二つ目は健康。医療が発達している日本だからこそ、日本女性は世界一の長寿なのです。女性問題についての世界会議では盛んに女性の健康が課題となりますが、日本の女性はそこをクリアしています。三番目は安倍首相が女性の社会進出を推進していること。首相の意欲、熱意をテコに日本の女性たちは政府にどんどん働きかけてほしいと思います。」

2014春節レセプション開催

日本香港協会 全国連合会 事務局

（左から）佐々木由紀雄・香港経済貿易代表部投資推進室室長、仁坂吉伸・和歌山県知事、王晩渡・中華人民共和国駐日本大使館公使、海江田万里・日本香港友好議員連盟会長、黄碧兒・香港経済貿易代表部首席代表、松山良一・日本政府観光局理事長、蔡冠深・香港・日本経済委員会委員長、古田茂美・香港貿易発展局日本首席代表、堀和典・香港政府観光局日本局長

香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部（香港経済貿易代表部）、香港・日本経済委員会、香港貿易発展局は2月13日（木）、毎年恒例となっている「香港春節レセプション」を、東京都港区虎ノ門のホテルオークラ・アスコットホールにて開催いたしました。

香港政府観光局、香港投資推進局（インベスト香港）、日本香港協会全国連合会といった香港関連機関の後援を得て開催したもので、会場には日本の政官財学、各種団体や報道機関などから総勢500人以上が集いました。昨年の参加者は約270人でしたので、今年はほぼ2倍に相当する、大規模なレセプションとなりました。

最初に香港を代表して、香港経済貿易代表部の黄碧兒首席代表が開幕のあいさつに立ち、2013年の特筆すべき話題として、「インベスト香港の調査では、香港に進出している外国企業の数で、日本が国・地域別で米国を抜いて首位となりました。多くの中小企業が、最初の海外進出先として香港を選択しています」と述べました。また、香港市民の日本食に対する需要が旺盛で、日本の農産物輸出の5分の1以上が香港向けと、香港が単一で最大の海外日本食マーケットとなっていることも指摘し、香港と日本のつながりの深さを強調しました。

今年の会場は東京・港区のホテルオークラ別館地下のアスコットホール

（左）蔡冠深・香港・日本経済委員会委員長、（右）黄碧兒・香港経済貿易代表部首席代表

（左）西村康稔・内閣府副大臣（右）蔡冠深・香港・日本経済委員会委員長

（左）香港経済貿易代表部・黄碧兒首席代表
（右）日本香港友好議員連盟・海江田万里会長（衆議院議員、民主党代表）

黄首席代表はまた、2013年の香港から日本への訪問者数が前年比55％の74万5,800人に達したことに触れ、香港と日本の緊密な交流に賛意を表するとともに、日本から香港への訪問について、「ビジネス、留学、観光など、いずれの目的であっても歓迎」する意向を示しました。これは香港の人口が715万人程度にすぎないことを考えると、単純計算で実に10人に1人以上の香港市民が日本を訪れたことになる訳で、まさに驚異的な数字と言えます。

続いて香港・日本経済委員会委員長で、香港中華総商会名誉会頭を兼任する蔡冠深・新華集団会長が歓迎のあいさつを述べ、日本香港友好議員連盟の海江田万里会長（民主党代表）が来賓を代表してスピーチを行いました。

日本香港友好議員連盟は、羽田孜元総理、自見庄三郎前参議院議員が会長として、20年間にわたり、日本と香港の友好のために努力してきた議連であり、海江田代表は2013年11月の総会で会長を引き継ぎ、今回が同議連の会長としての初の香港春節レセプションへのご出席となりました。

和洋中の楽器が奏でる豪華なアンサンブル

次に、日本政府観光局の松山良一理事長が壇上に上がり、主催者代表と来賓代表をバックに盛大な乾杯の音頭を取ると、場内は春節の祝いにふさわしい、満場の拍手に包まれました。

後半は、香港貿易発展局東京事務所の後藤亜希郎次長より、同局の組織・事業概要や、同局が香港で主催している「ウォッチ＆クロック・フェア」（毎年9月）、「エレクトロニクス・フェア（秋）」（毎年10月）、「ギフト＆プレミアム・フェア」（毎年4月）といった業界内で世界最大規模の展示会についての紹介がありました。その後は、西村康稔内閣府副大臣が来賓としてあいさつを行いました。本レセプションには、関西から仁坂吉伸・和歌山県知事にもお越しいただきました。同県は2013年7月、香港貿易発展局との間で、経済交流促進のための業務提携覚書に調印しました。香港貿易発展局が日本で県レベルの自治体とこうした覚書を交わすのは初めてのこと。同県は今後、香港を通じて、県内の食品、日用雑貨、繊維などの産業に関連した製品を積極的に海外に輸出してゆく方針です。

香港の春節レセプションのパフォーマンスは例年、獅子舞が恒例となっていました。しかし今年は、やや趣向を変えて、中国楽器の二胡、和楽器の尺八、西洋楽器のチェロとピアノという、大変珍しい編成の四重奏が繰り広げられ、各国から集まった来場者を魅了しました。

最後に香港貿易発展局の古田茂美日本首席代表が、香港と日本のさらなる交流拡大を願う閉幕のあいさつを行い、今年も香港春節レセプションが盛大に幕を閉じました。

第７回アジア金融フォーラム

米国元財務長官ティモシー・ガイトナー氏

アジア開発銀行中尾武彦総裁

第７回アジア金融フォーラム（AFF）は2014年1月13-14日に香港コンベンション＆エキシビションセンターにて世界41カ国から2,400名を超えるビジネスリーダーや政府関係者の参加、100名以上の講演者により開催されました。主な参加国代表団はオーストラリア、カナダ、中国、ドイツ、インド、インドネシア、日本、韓国、フィリピン、ロシア、南アフリカ、タイ、英国、米国でそれぞれの上級管理職が出席いたしました。

香港貿易発展局（HKTDC）ジャック・ソー会長はフォーラムのオープニングスピーチにて、アジアがビジネスの根底にて世界経済や世界金融システムで重要である事を述べました。さらに近年ではASEAN地域においては中国本土にもたらす世界経済と金融エンジンがますます顕在化し、アジアが世界成長の原動力であると語りました。

香港特別行政区梁振英行政長官は、東と西における人と市場のコネクターが香港の役割である事を強調し、また今日において世界最大の人民元オフショアセンターが香港である事を説明いたしました。

アジア開発銀行の中尾武彦総裁は、成長は堅調であると述べ、世界経済におけるアジアの役割の増大に焦点を当てたスピーチを行いました。世界経済のアジアでのシェアは約30％であり、今日1990年から20％上昇したと述べました。そして、さまざまな課題にもかかわらず、市場は大変積極的であると述べました。また、私たちの地域では適度な成長が見られるが、2つの事を考慮しておくべきであると述べました。最初は節度なき成長過程に関して、2つ目は、持続可能性のために必要である重要な構造改革と並行して発生しており、公平で環境に配慮した形での堅調な成長について語りました。

2009年から2013年1月まで米国財務省長官であったティモシー・ガイトナー氏は1月14日のランチセッションにて、米国と中国の関係について経済が密接に統合されていることを指摘し、「合理的で楽観的」「相補的」と述べました。

アジア金融フォーラムにおけるビジネスマッチング（AFF）ディール・フロー・マッチメイキング・セッション

今年は中国の投資家と本土の資本を探している国際的なプロジェクトオーナーなどの投資家や企業間の投資を探している400人以上の資金提供者と投資案件提供者による1対1のミーティングが行われました。

このユニークなディール・ソーシングとマッチング・セッションは、香港ベンチャーキャピタル＆プライベート・エクイティ協会（Hong Kong Venture Capital and Private Equity Association（HKVCA））と香港貿易発展局（HKTDC）によって共同運営されています。このAFFのディール・フローでは、共通の関心分野をもとに、参加者が、世界中からの潜在的なビジネス・パートナーと出会うことが可能となります。ここ数年に亘って約1,700のミーティングが500以上の企業を対象に行われ、仲介機関や専門的なサービス・プロバイダー、投資プロジェクト所有者、プライベート・エクイティ企業、投資家、富裕層、上級専門職などの方々が参加しています。

中国の海外投資の動向に伴い、AFFディール・フローは、海外投資の機会を狙う中国投資家と、海外プロジェクト所有者とのマッチング・ミーティングも行われました。

また、AFFディール・フロー80%以上の参加者が、潜在的な案件や投資家を見つける良いプラットフォームであると評価しており、82%の参加者が、ディール・フローから創り出された案件が高い確率で具体化されると示唆しております。

（日本香港協会理事　原　義弘）

TOKYO

NPO法人日本香港協会

第13回NPO法人日本香港協会年次総会開く

ご挨拶する原田理事長

講師　河東哲夫氏

梅の香る春暖の3月15日（土）、霞ヶ関ビル内東海大学校友会館にて「第13回年次総会」、並びに「2014春節の集い」を開催致しました。当協会の菅沼副理事長の司会の下に、原田理事長が議長となり、「平成25年度事業報告」、「平成25年度決算報告」、並びに「監査報告」、また新年度に関して事務局より「平成26年度事業計画」、並びに「平成26年度予算計画」の説明を行い、全議案とも満場一致で承認され、滞りなく終了致しました。

平成26年度事業計画は、例年人気の広東語教室、2か月おきに開催される香港ビジネス懇話会、6月の横浜国際ドラゴンボートレース参戦、日港市民交流を目的とする七夕パーティ、クリスマスパーティ、それに女子会バウヒニア会の料理系、エンタメ系イベント、ビジネス交流、8月のアジアユースオーケストラ（AYO）支援、機関紙「飛龍」発行等々で、文化交流における女子会バウヒニア会の活動が多くなります。ご期待ください。

続いて開催された「2014春節の集い」では、第1部は、国際情勢、なかでも、ロシア、米国、西欧、中央アジアについて詳しく、また中国、韓国、台湾、ASEANについても同様の知見をもつ、元在ウズベキスタン・タジキスタン大使であり、日本政策投資銀行設備投資研究所の上席主任研究員を経て現在フリーの評論家でいらっしゃる河東哲夫氏に「中国は、『ソ連病』にやられない？香港があるから？」という題目にてご講演戴きました。ロシア情勢に精通した元外務省職員でロシア公使や在ウズベキスタン・タジキスタン大使などを歴任されたロシア通の河東氏からみた中国の現状を香港の存在という視座からお話戴き、第2部の懇親会含め、会員との和やかな懇親の場となりました。

第35回香港ビジネス懇話会開く

新年早々1月10日に、日比谷内幸町の日本プレスセンタービルにあるフォーリン・プレスセンターにて、元日経中国社（香港）社長（現日経執行役員・日経中文網発行人、日経創意（北京）広告有限公司董事長）の奥村幸弘氏をお迎えし、『日本メディアの中国語ニュース発信』と題する第35回香港ビジネス懇話会が開催されました。

お話の内容は、中国情報を日本語で伝える主要中国メディアの日本語ニュースサイト、即ち人民網（人民日報：1998年）、新華網（新華社通信）、中国網（チャイナネット）、更に、1941年大陸戦争時代に延安から日本語放送を開始した長い歴史をもつ中国国際放送局、それに中国主要メディア情報を取り扱う中国通信社（ＣＮＳ）などは、日本・世界の情報を中国語で伝える日本の大手メディアの中国語ニュースサイトより、歴史的にも、量的にも遥かに勝っている。その背景には、中国経済の国際的な地位の向上と国内ニーズ、またメディアそのものの電子媒体を利用した国際化戦略が今や所与のものとなっているという現状がある。

日経中文網は、速報記事よりも評論などのじっくり読ませる長文記事を主に、中国人スタッフが選んだ日経の日本語記事をベースに北京で中国人スタッフが中国語に翻訳してサイトに掲載している。しかし、現地スタッフに任せっぱなしにすると中国サイドに偏った政治がらみの記事が多くなり、日本の社会情勢などキメの細かいニュースはウエイトが低くなることになる弊害がある。

編集要員採用、訓練、確保においても欧米系メディアに比べて遅れをとっているのが実態。

「日経中文網」は立上げ以降、広告収入を原資として無料配信。尖閣問題、アベノミクスなどが話題になるにつれてここ一年で読者数も増加し軌道に乗りつつある。

また、海外メディア規制について。北京、上海など地域によって異なる海外メディアに対する規制があり、ニューヨーク・タイムズ、BBC,朝日などの中文網は中国内からアクセス不能という長期遮断のインターネット規制を受けている。新聞機構からの対中投資は原則禁止であり、事実上、海外メディアは中国国内からのニュース発信は不可能である。中国内駐在記者への報道ビザ発給制限もある等々、日本のメディアの中国語ニュース配信における現状、課題のお話に、会員の皆様も熱心に耳を傾けていました。

KANSAI

関西日本香港協会

関西日本香港協会　理事・事務局長　戒田真幸

チャイニーズ ・ニュー・イヤー・パーティー2014

チャイニーズ・ニュー・イヤー・パーティー2014にて

関西日本香港協会では、2014年度総会とチャイニーズ・ニュー・イヤー・パーティーを2月19日にヒルトン大阪で開催しました。過去最大136名の参加者を得てとても盛大なパーティーとなりました。パーティーには香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部、中華人民共和国駐大阪総領事館、経済産業省近畿経済産業局や関西経済連合会などの経済団体の代表、大阪・京都・兵庫・滋賀・和歌山の府県代表の方々にも多数ご参加いただき、大変盛り上がって有意義な懇親行事を実施することができました。

パーティーは木全千裕会長の挨拶で始まり、香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部代表の蔡亮(ローラ・アーロン)氏が来賓の挨拶をされ、香港貿易発展局日本首席代表の古田茂美氏の歓迎挨拶に続いて中華人民共和国駐大阪総領事館副総領事の于淑媛(ウ・シュクエン)氏が乾杯の音頭を取られました。会食はヒルトン大阪『王朝』の中華料理、旧正月の特別料理を楽しみました。挨拶の中で、貿易や観光分野で日本と香港との交流が順調に促進されていることがよく理解できました。また、本年1月に香港貿易発展局と大阪商工会議所との間でMOU(相互理解促進覚え書)の調印が香港で実施され、パーティー当日に記者発表がなされたとの報告がありました。香港貿易発展局が大阪・関西圏と本格的な交流促進に注力することになり、協会としてもより充実した事業を実施して、この新しい動きに積極的に関与していきたいとの思いを強くしました。

今年のアトラクションは、永年にわたり地元で活躍しているジャズ歌手の林三郎さんに往年の懐かしいジャズの名曲、太陽は燃えている、ビギン・ザ・ビギン、テネシーワルツなどを歌っていただき、楽しいトークとともに大いに楽しみました。

今年もラッキードローに協賛企業や会員の皆さまからたくさんの景品が提供され、特別賞の「キャセイパシフィック航空会社提供香港往復ペア・チケットとヒルトン大阪提供香港コンラッドホテル宿泊券」の抽選の際には場内が最高に盛り上がりました。

最後に当協会の田中義次副会長による閉会の挨拶で、楽しかったパーティーを終了しました。

春節セミナー開催

香港春節セミナーにて　左：古田茂美氏、右：吉田寛氏

新春にあたり、香港貿易発展局との共同主催で2月19日にヒルトン大阪において「アジア市場へのゲートウェイ：香港」をテーマにした春節セミナーを開催したところ、会場いっぱいの163名の参加者で大変盛会でした。

講演1では、香港貿易発展局古田茂美日本首席代表に『「香港からみたアジア・中国ビジネス：現状と今後の展望」～関西と香港の役割～』と題した講演をしていただきました。豊富な画像・資料に基づき日本香港協会の活動状況と香港ビジネス協会世界連盟のネットワーク、関西と香港との交流の新たな展開、香港経済の最新動向、日本と香港とのビジネス交流、香港から観る中国の展望、香港から観た東南アジア・インド市場などの盛りだくさんの内容の解説をしていただき、香港の重要性をあらためて再認識させられました。

講演2では、Pacific Site Holdings Limitedの代表取締役、社団法人香港日本料理店協会会長の吉田寛氏に『「香港・中国ビジネス成功の鍵」～香港で起業、艱難辛苦三十年～』と題した講演をお願いしました。食品会社のサラリーマンをされていた吉田氏が1983年に香港に転勤となり、日本食品を日系百貨店やスーパー、レストランに販売する営業業務に就かれました。日本食を香港人に紹介し、地場公設市場や地場コンビニ、スーパーへの拡散努力を続けられ、2002年にはついに念願の飲食業への進出を果たされました。そして現在6カ店の和食レストランを経営するまでに至った過程など、苦労と成功の経験談をユーモアを交えながら話され、大変興味深く、引き込まれるように聞き入りました。1990年には雑貨や繊維製品などの対日輸出を扱う商社を設立され、中国の広東省で女性下着の生産工場も経営しておられます。吉田氏が香港で事業に成功された経験談と実践的な新規事業への示唆に、強い刺激を受けたセミナー参加者は多かったことでしょう。

CHUKYO

中京日本香港協会

2014年　新年総会及び新春パーテイ報告

中京日本香港協会　副会長・事務局長　佐藤亮一

春節パーティでの記念撮影

東インド古典舞踊オディッシーダンス

本年も、総会に先立ち当協会会長　豊島徳三氏の音頭により午年を象徴するがごとく威勢のよい掛け声にて、2月18日名古屋商工会議所内ホールで新年の挨拶が理事全員出席のもと、総会が開催された。

まず、昨年一年間の事業報告ならびに会計報告に次いで、新年度会計予算と計画も第120回理事会検討案どおり、当総会において理事全員の合意を得て承認された。本年度会長以下理事全員の創意として協会のテーマ「経済セミナーの会員への情報提供の多角化(ビジネスおよび観光など)そして個人会員の増強」として予定どおり議事の遂行となった。

午後4時より、今回のセミナー①香港貿易発展局日本首席代表古田茂美氏より「香港からみた対中国・アジア市場の展望」　②HSBC投信　代表取締役松田宇充氏により「人民元国際化の将来展望」と現在週刊誌、他機関誌で話題の2テーマを出席者に配布されたセミナー用テキストを参照にて講演を戴いた。参加者73名、興味ある話題でもあり熱心に聴講する傍らメモを採る姿も散見され成功裡に終了でき、いつもながら貿易発展局の配慮には感謝する次第です。

さて、つぎに夕方6時より2014年恒例の春節パーテイが開催された。特別ゲストとして、香港経済貿易代表部代表ローラ・アーロン氏ならびに中国経済商務領事池暁南氏ー後ほどのラッキードローにて見事中部新空港～香港間往復航空券を射止められたーほか、多数のゲストに参加を賜り盛大に催すことが出来た。アトラクションとしてライオンダンスに始まりパーテイ中盤にはインドの舞踊グループによる「東インド古典舞踊オディッシーダンス」にて華を添え参加者の絶大なる拍手を浴びた。異文化共生の一環としての事務局の企画であった。今後も多方面の経済、文化など香港らしさの演出は何事にも実践してゆきたい。最後に、新年を迎え所感として午年に因み「馬には乗って観よ、人には添うて見よ(物事には実際に経験してみないと判らない)」というように、何事にも挑戦する姿勢を当協会の精神としたい。

飛龍　No.76　2014年4月 発行
(禁無断転載)

日本香港協会 全国連合会

〒102-0083　東京都千代田区麹町3-4　トラスティ麹町ビル6階
香港貿易発展局 東京事務所内
電話(03)5210-5901　FAX(03)5210-5860

ＮＰＯ法人日本香港協会(東京)
〒102-0083　千代田区麹町3-4　トラスティ麹町ビル6階
香港貿易発展局内　電話(03)5210-5870

関西日本香港協会
〒541-0052　大阪市中央区安土町2-3-13　大阪国際ビルディング10階
香港貿易発展局内　電話(06)4705-7030

中京日本香港協会
〒460-0003　名古屋市中区錦2-11-27　ＴＨ錦ビル8階
株式会社喜斎内　電話(050)3620-2517

九州日本香港協会
〒812-0011　福岡市博多区博多駅前2丁目9-28　会議所ビル1階
地域企業連合会 九州連携機構 内　電話(092)451-8610

山形日本香港協会
〒990-2432　山形市荒楯町1-14-21
(株)日本不動産コンサルティング内　電話(023)633-2110

北海道日本香港協会
〒060-8661　札幌市中央区大通西3-11
北洋銀行国際部内　電話(011)261-4288

宮城日本香港協会
〒980-0811　仙台市青葉区一番町3-7-23　明治安田生命仙台一番町ビル3階
(株)ＪＴＢ東北 交流文化事業部内　電話(022)212-5552

沖縄日本香港協会
〒900-0033　那覇市久米2-2-10
那覇商工会議所内　電話(098)868-3758

広島日本香港協会
〒730-0052　広島市中区千田町3-7-47　広島県情報プラザ3階
(公財)ひろしま産業振興機構　国際ビジネス支援センター内
電話(082)248-1400

新潟日本香港協会
〒951-8052　新潟市中央区下大川前通四ノ町2186番地
愛宕商事株式会社内　電話(025)365-0001

ＵＲＬ　http://www.jhks.gr.jp

KYUSHU

九州日本香港協会

2014年春節セミナー＆パーティー開催

九州日本香港協会事務局

九州日本香港協会では2月14日（金）に、香港貿易発展局と共催にて2014年春節セミナー＆パーティーを開催しました。第1部のセミナーは「今こそ、中国マーケティングの手法を再考する－中華圏ビジネスに不可欠な『グワンシ（関係）』を築いた九州と香港を検証－～時空を超え、地理を超え、アジアの未来に活きる九州人を目指す～」と題して、キャナルシティ博多のユナイテッドシネマ13番スクリーンで行いました。当協会としては初めて映画館でのセミナー開催ということもあり参加者は190名を数え、地元のテレビや新聞にも取り上げられました。

石原会長による開会挨拶のあと、香港・日本経済委員会の委員長であるジョナサン・チョイ氏、及び一般社団法人九州経済連合会の会長である麻生泰氏に来賓挨拶をいただきました。続いて特別講演として、東京大学大学院東洋文化研究所教授の園田茂人氏に「中国人の心理と行動～『関係』の作り方～」と題してお話しいただきました。講演の主な内容としては、中国市場でビジネスを行う際に、中国の行動文法である「面子」「関係」「人情」を理解する必要がある。日本人は社会的地位に対する扱いを重視するが、中国では社会的地位ではなく社会的能力に対する評価がないと「面子」がつぶされたという見方になる。その一例として、中国企業で表彰をする際に名前だけでなく、写真を掲げて高い評価をしている姿勢を示す。「関係」を維持するためには利益のバックアップ（贈り物）が必要であり、口だけの関係は長続きしない。といったように中国人の行動心理について非常に分かりやすくお話しいただきました。

講演の後パネルディスカッションを行い、パネラーとしてジョナサン・チョイ氏、園田茂人氏、麻生泰氏、石原会長に加え、国際東アジア研究センターの理事長である末吉興一氏、有限会社日比谷松本楼の取締役副社長である小坂文乃氏に登壇いただき、香港貿易発展局日本首席代表の古田茂美氏がモデレーターを務められました。主な発言としては、100年前の辛亥革命、あるいは1200年前に空海が九州の唐津港から中国に渡ったといった過去の発見が「関係」の構築に役立っている。梅谷庄吉夫妻と孫文の銅像が長崎県に中国政府から寄贈されたのは100年前の恩返しであるというように、返済性を伴う関係性が「グワンシ」の特徴である。遣唐使の時代から九州がアジアの窓口であったように、九州人のDNAには国際的な血が流れている。ただ、国際化を進めていくには言葉をしっかりと勉強する必要がある。といった活発なディスカッションが行われました。また、パネルディスカッションの最後には、今年の4月よりチャイニーズ・マネジメント＆マーケティング・スクールが東京、大阪に続き福岡で開講されることも紹介されました。

セミナー終了後、会場をグランドハイアット福岡3階グランドボールルームに移して第2部の春節パーティーを開催しました。セミナー登壇者をはじめ、総勢106名が参加しての活気あるパーティーとなりました。

石原会長による開会挨拶のあと、福岡県の副知事である服部誠太郎氏、及び中華人民共和国駐福岡総領事館の副総領事である霍穎（かくえい）氏に来賓挨拶をいただきました。一般社団法人九州経済連合会の名誉会長である松尾新吾氏による乾杯のご発声の後、来賓の皆様そろっての記念撮影を行いました。パーティーの後半では、今回ご多忙の中九州にお越しいただいたジョナサン・チョイ氏に感謝の意を込めて、石原会長から記念品（唐津焼の窯元である今岳窯の抹茶碗）を贈呈しました。毎年恒例のラッキードローでは会場となったグランドハイアット福岡にある中華レストラン「チャイナ」のお食事券、会長賞として九州旅客鉄道株式会社より「華都飯店」のお食事券、そしてキャセイパシフィック航空会社より福岡－香港往復ペアチケットが当たり、会場は大いに盛り上がりました。最後に佐々木副会長よりご挨拶をいただき、閉会となりました。

今回のセミナーで「関係（グワンシ）」について勉強しましたが、九州の経営者がさらに知識を深める場としてチャイニーズ・マネジメント＆マーケティング・スクールが4月に福岡で開講されます。九州日本香港協会としてはこの魅力をどんどんアピールしていきたいと思います。

パーティーでの記念撮影

HOKKAIDO

北海道日本香港協会

「香港ビジネスセミナー」、「香港のつどい2014」を開催

北海道日本香港協会事務局

「香港のつどい2014」　横内会長による主催者挨拶

味珍味（香港）有限公司　会長　フランキー・ウー氏のご講演

北海道日本香港協会では、さっぽろ雪まつりに合わせ、2月5日に「香港ビジネスセミナー」ならびに「香港のつどい2014」を開催しました。

「香港ビジネスセミナー」では、3名の講師の方々にご講演をいただきました。

まず初めに、香港貿易発展局日本首席代表の古田茂美氏より、「香港からみた対中・アジア市場の展望」と題し、2014年の香港の経済見通しや北海道企業の香港進出の可能性について、具体的なデータに基づき、わかりやすくご講演いただきました。さらに、中国の12次５カ年計画や成長著しい東南アジア、インド市場についてもご説明いただき、アジアのハブとしての香港の魅力をあらためて感じることができました。

続いて、札幌大学大学院経営学研究科教授の千葉博正氏より、北海道と香港等を結ぶ「北海道国際輸送プラットホームの取り組み」について、ご講演いただきました。

北海道のどこからでも、香港、シンガポール、台湾の購入者の自宅や取引先の店先まで、ダンボール1箱から、最短2日で冷凍・冷蔵輸送が可能な「HOP1サービス」の特徴や、このサービスを活用したネットショッピング、「海外おみやげ宅配便」などの新たなプロジェクトについてご説明いただき、事業者の皆さまの海外ビジネス拡大のヒントとなりました。

最後に、香港の日本食品輸入会社である味珍味（香港）有限公司の会長フランキー・ウー氏より、「アジア地域での日本食品の市場展開」と題して、ご講演いただきました。香港市場を開拓するための各国、各企業の取組みをご紹介いただき、道内企業の皆さまにとって大変参考になるお話をいただきました。

売り込む市場を明確に定めることや、商標登録の必要性など、海外の激戦区へ輸出する際の秘訣、さらには「オリンピックは4年に1度の開催ですが、香港では『食品のオリンピック』を毎日開催しているので、北海道の企業の皆さまもぜひ積極的に参加して欲しい」とのお話に、参加者の方々は熱心に聞き入っていました。

セミナー終了後に、「香港のつどい2014」を開催しました。冒頭に主催者を代表して当協会の横内会長が挨拶。その後、香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部ローラ・アーロン代表、香港政府観光局堀和典日本局長よりご挨拶をいただきました。地元を代表して、北海道経済産業局増山壽一局長よりご挨拶をいただいた後、中華人民共和国駐札幌総領事館滕安軍総領事の乾杯により、盛大にスタートしました。

会場では、香港とのビジネスに取組まれている多くの道内企業様のご協力を得て、北海道スイーツや乳製品、ワイン、銘酒などの試食コーナーを設けました。香港政府関係者の方々や参加された皆さまに楽しんでいただくとともに、道産食品の魅力をＰＲしていただく機会にもなりました。

また、アトラクションでは「ダンディー・フォー」の皆さまより、素敵なハーモニーをご披露いただき、会を盛り上げていただきました。毎年人気のラッキードローでは、多くの企業様より景品をご提供いただき、キャセイパシフィック航空会社様、香港政府観光局様より特賞としてご提供いただいた「札幌－香港ペア往復航空券＆ホテル宿泊券」の抽選の際には、場内が最高に盛り上がりました。香港と北海道両関係者の皆さまに親睦を深めていただき、盛況のうちに会を終えることができました。

北海道日本香港協会は、今年の12月で設立10周年を迎えます。会員の皆さまのご協力をいただきながら、これまで以上に、北海道と香港の文化・経済交流の発展に向けて、努力してまいります。

MIYAGI

宮城日本香港協会

宮城日本香港協会　事務局　武田　功

「2014春節セミナー＆パーティー」を開催しました

沖縄県外間班長による講演風景

2月20日（木）「2014春節セミナー＆パーティー」をパレスへいあんに於いて開催しました。寒い中、112名もの参加者を得て盛大に開催することができました。小野寺初正会長の挨拶で幕を開け、村井嘉浩知事祝辞（山崎県国際経済・交流課長代読）、TDC日本首席代表古田茂美氏の祝辞の後、アジアの国際物流拠点を目指す沖縄県の取組みについて、沖縄県国際物流推進班長の外間一樹氏による「沖縄県が目指す国際物流拠点の形成」と題しての講演がありました。沖縄・那覇空港を活用しての日本農産物の輸出、13億人の巨大市場が4、5時間圏内に入る地理的優位性を売り物に、今、世界の物流拠点としてハブ化を目指す取組みを紹介していただきました。

第2部は春節パーティーです。菊地副代表理事による挨拶、奥山恵美子仙台市長の祝辞（高橋輝国際プロモーション課長代読）の後、ETO駐東京経済貿易代表部代表のローラ・アーロン氏による祝辞があり、香港の魅力、日本との交流の深さについてスピーチされました。みやぎ女将会磯田悠子会長の音頭で乾杯、「ファシクラ弦楽旅団」のマンドリン・オーケストラが支倉常長にちなんだ演奏を披露、素晴らしい演奏に会場も一変、一時コンサートホールに衣替えしたような雰囲気でした。

ローラ代表、古田日本首席代表との記念撮影

芋煮会（YOUYOUクラブ主催）を開催しました

昨年11月3日芋煮会を会員親睦を兼ねて開催しました。この上ないぽかぽか陽気の中、老若男女総勢46名の方々に参加いただきました。小野寺初正会長の挨拶及び乾杯で始まり、皆、和気あいあいとした雰囲気の中、BBQの焼く人、いも煮を調理する人など、なんとなく適材適所におさまり、かたづけまでスムーズにご協力いただきました。広瀬川では鮭の産卵が見られるなど素晴らしいロケーションを楽しみながら、あっという間のひと時を過ごすことができました。

第2回香港文化教室（女性部会主催）を開催しました

芳賀料理長のレシピの説明にみなさん真剣です

2月12日（水）第2回文化教室「中国料理教室」を開催しました。１８名の方々に参加いただき、料理長の芳賀公仁彦氏を講師に、中国餐庁「北京」において、和やかに、そして楽しく開催することができました。当日、仙台は大雪に見舞われ交通機関に遅れが出るなど悪条件でしたが、全員笑顔で参加しました。大坪富雄代表理事の挨拶でスタート、「みやこがねもち焼売」（焼売の皮の代わりにもち米を肉あんのまわりにまぶしつけて蒸した焼売）について、芳賀料理長からレシピの説明をいただき、もち米と玉ねぎの食感が相まってモチモチ度がアップした熱々の出来立てを試食、作り方のコツを教えていただきながらのフルコースの料理に、大いに満足げでした。

OKINAWA

沖縄日本香港協会

沖縄日本香港協会

春節ランチョン　開催

春節ランチョン

㈱一蘭　吉冨学氏

平成26年2月27日ザ・ナハテラスにおいて、古田茂美香港貿易発展局首席代表古田茂美氏をお招きし、沖縄日本香港協会役員との意見交換を目的とした「春節ランチョン」が開催された。当日は、沖縄日本香港協会会長國場幸一（沖縄県商工会議所連合会会長）を始め、沖縄日本香港協会・役員と全日本空輸㈱谷村昌樹氏に参加頂いた。

冒頭、沖縄日本香港協会國場幸一会長から「沖縄県において、香港はアジア地域でも重要な拠点となっている。香港においては、外国人による創業・新たなビジネスの取り組みが活発に行われている。沖縄が香港に学ばなければならないことは多い」と挨拶した。

古田代表からは、香港貿易発展局および各地の日本香港協会の平成24年の活動報告が行われた。特に平成24年5月に沖縄県名護市　万國津梁館で開催された「アジア・フォーラム」に関して、成功裏に終了したことが報告され、開催当時撮影された写真を見ながら「アジア・フォーラム」開催状況を確認した。平成26年も香港貿易発展局が、沖縄日本香港協会の活動を支援を確認し、更なる活動の強化を目指す。

「新たなる香港ビジネスの挑戦」春節セミナー開催

平成26年2月27日　かりゆしアーバンリゾート那覇において、香港貿易発展局、沖縄日本香港協会、那覇商工会議所の共催で開催された。

冒頭、香港貿易発展局日本首席代表古田茂美氏より「アジアの未来に活きる沖縄そして香港」と題して講話があった。

その後、「一寸法師戦略～弱者が強者に勝つための戦略」と題して株式会社一蘭代表取締役吉冨学氏の講演と続いた。

吉冨氏が代表を務める㈱一蘭は２０１３年７月よりとんこつラーメン店を香港にオープン。すでに多くの日本食レストラン・居酒屋等が多く進出し、競争が厳しい香港においていわゆる「ひとり食い」スタイルで大成功を収めている。

吉冨氏は、インターネットの普及により情報が短時間で多くの人に広がることにより、「消費者の判断能力がアップしている」とし、インターネットの普及に見られるように未来変化を読み取る力が重要であると語った。

「企業としてブランドは信頼の証であり、ブランドとは人々の記憶に粘りつくイメージである」と語り、企業にとってブランドイメージの構築がいかに大事で難しいかを様々な事例を挙げて説明された。多くの若手経営者も参加していたが、皆熱心に講演に聞き入っていた。競争が非常に厳しい香港において、新たに進出する企業の新たなビジネスモデルを学ぶ場として有意義なセミナーとなった。

セミナー終了後、懇親会が開催され、会員同士親睦を深めると同時に、本年度で日本香港協会全国連合会　会長を退任される國場幸一　会長への香港貿易発展局より記念品贈呈が行われた。

春節セミナーの様子

HIROSHIMA

広島日本香港協会

広島日本香港協会　事務局　黒永康太郎

春節・意見交換会の開催について

深山会頭のご挨拶

広島日本香港協会では、去る2月21日(金)に香港貿易発展局のご支援の下、「春節・意見交換会」を、昨年と同じく市内のリーガロイヤルホテル広島・中華料理レストラン「龍鳳」にて開催いたしました。協会からは、深山英樹会長、光本和臣副会長ら8名の役員の方々にご出席頂き、香港貿易発展局大阪事務所の伊東正裕所長ならびに田中洋三次長にご参加いただきました。冒頭での深山会長からの挨拶では、香港への訪問ならびに一昨年度の香港フォーラムへの参加等のご経験から、「香港」は中国・東南アジアへのゲートウェイとして大変魅力のある国の一つであること、また、香港の生の情報を直接吸収するために、今後の日本香港協会事業や香港フォーラムへより多くの協会会員の皆様方にご参加をいただきたいと述べられました。

意見交換会では、伊東所長より「香港から世界に繋がるビジネスネットワーク」と題し、日本香港協会と香港ビジネス協会世界連盟を紹介するプレゼンテーションが行われました。現在、日本香港協会は全国に10協会まで増えている一方で、香港ビジネス協会世界連盟には、世界24カ国35の香港ビジネス協会が属し、約11,000以上ものメンバーで構成されているとご説明があった後、今年度開催された「10th Asia Forum 2013」ならびに「14th Hong Kong Forum 2013」等の事業報告があり、最後に来年度「香港フォーラム2014」の開催日決定に伴い、協会会員のより一層の参加をお願いするとご案内を頂きました。

伊東所長のご説明

続いて、当協会の光本副会長より、昨年の12月の「14th Hong Kong Forum 2013」に、協会メンバーを率いて参加したことについてのご報告がありました。日本全国の香港協会会員が集まる全国連合会主催の交流会への参加や、香港ビジネス協会世界連盟のメンバーが集まるフォーラムの各種プログラムへの出席を通じて、香港でのビジネスの優位性を再認識する一方で、今年度は大気汚染、住環境の悪化等の香港の課題面についても聴講する事ができました。また「カイタッククルーズ・ターミナル」等への視察を通じて、現地の開発状況を自らの目で見る事ができた他、フォーラム参加メンバーと香港で活躍する広島ゆかりのビジネスパーソンと交流する等、大変有意義な参加となったと報告がありました。

そして、田中次長より「中国・アジア圏ビジネス潮流を掴むためには」と題し、日本香港協会全国連合会主催の、華人経営研究(Chinese Management & Marketing School)について、ご案内をいただきました。2014年4月より9月までの期間にて、全20講座のカリキュラムを学び、チャイニーズ・スタンダード(行動規範)定義・構造解明や中国事業リスクの発生原因解明、対リスク予見性向上といった能力を醸成できる講座との説明がありました。

会の最後には、出席者全員で、円卓を囲み、美味しい中華料理を堪能し、中国正月を祝うとともに、新年度の更なる当協会の発展を祈念し、無事に会を終了いたしました。

なお、この場をお借りして、ご多忙な中、会にご参加いただき、有益な情報をご提供いただいた、香港貿易発展局大阪事務所の伊東所長、田中次長には厚く御礼申し上げます。

事務局として、来年度におきましても協会会員の中から1社でも多く、香港貿易発展局の各種サービスを活用され、香港をパートナーとした海外での事業展開がなされることを期待しております。

NIIGATA

新潟日本香港協会

新潟日本香港協会事務局

2014年　春節セミナー＆パーティー

2014年春節セミナーでの会場風景

日本香港協会全国連合会事務局長　古田茂美氏による閉会挨拶

新潟日本香港協会では、中国・香港の春節を祝うイベントとして、2月3日（月）にホテルオークラ新潟において、香港貿易発展局と共催で「2014年春節セミナー＆パーティー」を開催しました。アジア諸国への販路拡大を図る企業が増える中、香港を経由としたビジネス展開に関心を持つ約90名の参加者を得て、盛会となりました。セミナー開催にあたり、主催者を代表して当協会の吉田会長が挨拶。その後、香港貿易発展局日本首席代表の古田茂美氏より、「香港からみたアジア・中国ビジネスの現状と今後の展望について」と題し、講演をして頂きました。古田代表からは、産業分野別の香港最新ビジネス動向、日本企業の中国市場参入におけるヒントとその可能性等についてお話して頂き、大変貴重な講演となりました。

セミナーの開始前には、香港・中国への投資や事業展開、現地との取引や提携を検討する企業担当者を対象とした個別ビジネス相談会を開催しました。当日は、日本香港協会副理事長で中小企業診断士である徳久日出一氏（株式会社ワールド・ビジネス・アソシエイツ副社長）にビジネスアドバイザーとしてお越し頂き、「香港に法人を設立したい」、「優秀で信頼できるパートナー企業を見つけたい」、「自社商品の輸出を検討しているためノウハウを教わりたい」と、香港ビジネスに積極的な県内企業3社が集まり、大変有意義な相談会が行われました。

2013年は、農林水産物の輸出額が前年比22.4％増の5,506億円となり、29年ぶりに過去最高を記録、輸出額が増加したのは2010年以来3年ぶりとなりました。品目別では、昨年12月にユネスコ無形文化遺産に登録された“和食”が海外でブームを呼んだことが後押しし、日本酒、味噌、醤油、緑茶等の和食に関連する食品が増加しました。本県においても、コメや日本酒の輸出が伸びており、2013年産のコメの輸出計画量は、都道府県別で2年連続トップとなりました。当協会の今後の活動は、「高品質である新潟の食が世界で注目される機会を増やす」を一つのテーマとし、地元の食品関連企業の会員の増強、アジアフォーラムや香港フォーラム、香港インターナショナル・ワイン&スピリッツ・フェア、フードエキスポ等への積極参加を促すことに重点をおいていく次第です。

パーティーでは、主催者挨拶に続き、新潟県副知事森邦雄氏、新潟市副市長若林孝氏、中華人民共和国駐新潟総領事館副総領事　宮暁冬氏よりご来賓挨拶を賜りました。そして、香港貿易経済代表部次席代表　徐逸氏による乾杯により会が始まりました。多くの参加者の皆様は、香港や中国のビジネス情報の交換や香港に関心のある者同士の名刺交換を行い、有意義なパーティーとなりました。

閉会の挨拶として、日本香港協会全国連合会の事務局長というお立場から古田茂美氏による日本香港協会全国連合会の活動内容や各協会との連携・役割等についてお話していただきました。最後に、今回の春節イベントを盛り上げてくださった関係各位にこの場をお借りして感謝申し上げます。